

アーネスト・サトウ『会話篇』Part II 訳注稿 (3)

櫻井 豪人

第8章 (EXERCISE VIII, p.55)

(訳者注：原文は EXERCISE VII と誤る)

1. おっしゃりました, 「おおせられる」 to speak の一般的な縮約形「おっしゃる」の丁寧形の直説法過去形で、身分の高い人、あるいは同等や目上の人の場合に用いられる。これは、古語の動詞「おおせる (ôseru)」 to speak の丁寧形であり、その直説法現在形から最後の u を抜いて「aれる (areru)」を加えて成ったものである。語根「おおせ」は what you said (あなたが言ったこと) や your observations (あなたの発言) などと同等の語として、同等または目上の人に話しかける場合に用いられる。
3. 「通り」に強勢が置かれることにより、exactly (全くその通りに) の作用が与えられる。
4. ところ, 直訳は place で、「ところに」 in the place (その場所で), under the circumstances of (…の状況下で), on (…してみると) のことである。直説法過去形と共に用いて英語の過去分詞の意味となり、(訳者注：「詮索致しましたところ」は) having inquired の意となる。「が」と同じように、多くの場合、逆接の意味も持つ。文の最初にある「ところが」は however の意味である。なるほどは、ここでは話し手によって投げかけられた質問の後に生じた気持ちを表わすために用いられており、あたかも話し手が自分自身に「なるほど」(just so) と言ったかのように見える。
6. さぞ, 「さよう」などに見られる指示詞語根「さ」と疑問の助詞「ぞ」の複合語で、probably to a great extent (大方きつと) というのがその辞書的な意味である。しかし、英語で置き換えるならば、後に very を伴う must (きつと…に違いない) とほぼ同等の語となる。「さぞお疲れでございましょう」は you must be very tired、または how tired you must be の意味となる。喜ぶ, to rejoice, to be glad の意。「あまり喜びますまい」は he will not be particularly delighted の意。この動詞から、形容詞「喜ばし-」が派生し、その副詞「喜ばしく」の後に「思う」を伴った形は、to feel pleased の意を表わす最も一般的な表現となる。そして、その否定形は to feel displeased の意を表わすために用いられる。後に「と」を伴う直説法現在形 (訳者注：「喜ぶと」) は条件法現在形 (訳者注：「喜べば」) と全く同じ意味になる。
7. おっしゃらんでも, (直訳は) [your] not-saying even である。
9. 申し訳, defence (弁護), explanation (弁解) の意で、「申す」 to say の語根と「分ける」 to distinguish (区別する) から成り、to give reasons for (…の理由を述べる) や to apologize (詫びる) の意となる。「言い訳」も同じ意味であるが、よりぞんざいな表現で

ある。

13. (訳者注：10. の誤り) 一向かって, against, at, to の意で、「向かう」to be towards, to be opposite の分詞。
12. 一却って, on the contrary (それどころか), contrary to expectation (予想に反して) の意。「かえる」to return の分詞。恥じ入る, 「恥じる」(第二活用) to feel ashamed と「入る」to enter in の複合語で、「入る」は複合語 (composition) として用いる場合、前部要素を強めるために用いる。例えば「困り入る」は to be very vexed (とても困っている) または put about (困る) の意。「痛み入る」は to be very sorry (とても申し訳なく思う) の意である。この文は、いくらかお世辞を含んだ表現に対して返答する際に用いられる。
13. 一言わっしゃる, 「言わせられる」の一般的な縮約形。「言わせられる」は、ちょうど「おおせる」から「おおせられる」が作られるように、「言う」to say の使役態「言わせる」から作られたものである。この語は「おっしゃる」ほど多くは使われないが、それはよりぞんざいであるためと考えられる。「一言」(漢語) は one word の意で、「一言も無い」は I have not a word to say (either in self-defence or denial) ((弁解のためにしても否認のためにしても) 私は言うべき言葉を持っていない) の意。
14. 一節 (漢語), a joint of bamboo (竹の節), a limit (限度), a point (点), a point in time (時点), an occasion (時期) の意。「この節」は this time (このたび), just now (たった今), the time just passed (ついさっき), lately (最近) の意。「その節」は at that time (その時) の意。なに, 「なに」の強調形。沙汰 (漢語); 「沙」は「砂」sand であり、「汰」は「揺る」to shake (揺らす), to shake sand in a sieve (篩で砂を振る), to separate the large particles from the small (小さい粒から大きな粒を分離する) の意で、転じて比喩的に、to sift reason from unreason (非合理的なものの中から合理的なものを選別する) の意や、to tell that which is reasonable (どれが合理的であるかを見分ける) の意、to give good advice (良い助言を与える) の意、to give directions (方向性を与える) の意、to inform, tell (知らせる、告げる) の意となる。名詞としての「沙汰」は、orders (命令), notice (通知), news (知らせ), statement (声明) の意となる。
15. 一御沙汰をする, to give notice (注意を与える), to inform (通知する) の意。
16. 一あり次第は、第3章4番の「見当たり次第」の類型表現。こちら, this place の意で、「こちらで」は on this side, on my side の意。on our side すなわち we の意でも用いられる。取り計らい, 「取り計らう」to make arrangements (手配する) の語根で、「取る」to take と「計らう」to devise (工夫する) から成る。「取り」を前部要素にするこれらの複合動詞の多くにおいて、「取り」が何ら働きを担っていないのは、卑俗な英語における to take and do や to take and go と(訳者注：take が何ら働きを担っていない点において)全く同じである。(訳者注：第10章41番にも同様の指摘がある。)
18. 一主人 (漢語) (「あるじ - ひと」master person の意), master あるいは mistress のこと。日本の家族では夫だけが「主人」であるが、未亡人の場合は、その人がその家の「主人」

となる。英語における mistress (主婦、奥方) は、wife に相当する語で表現される。

19. 一御沙汰；これは、「御」から敬語の意味合いが失われたと見られる場合の一例である。15番や16番の例文において、「御沙汰」は相手側から発せられた語であるが、ここでは相手側に発せられた語である。「沙汰する」は目下の者に対して命令を与えるの意であるのに、誤った類推から、同等の者に対して話す場合にも大抵「御」が前接する。この奇妙な現象は、「無礼」(漢語) rudeness という言葉においても同様に観察される。通常は「それは御無礼でございます」that is rude of you, Sir (無礼じゃないですか) のように用いるが、実際には「御無礼致しました」I have been rude to you (あなたに対して無礼を働きました) のようにも用いられる。
21. 一趣き, meaning (内容), gist (要点、要旨) の意。「おもむく」to go towards の語根で、それゆえ英語でいう the bearing (趣旨) の意味となる。なにぶんどうも；「どうも」は「なにぶん」を強めているに過ぎない。考え, judgment (判断), opinion (意見) の意。「考える」to consider の語根。やっちゃ、「やっつは」のこと。「やる」は to do の一般的な口語表現。直訳は My orders are-not whilst-as-yet (uchi ni) self alone's judgment by acting will-not-do (must not act).
23. 一申すは「言う」より丁寧な言い方。
24. 一この文は丁寧さを誇張した表現の一例で、下層階級の者が目上の人に対してよく使う表現である。彼らは、there is not の意味で「ござりませんでござります」とも言う。
28. 一申しちゃ (Mos'tcha) は「申しては」のこと。
32. 一直訳は That is outside [the] talking.
35. 一全く, completely の意。
36. 一済む, 自動詞の to finish の意。「済まんこと」または「済まないこと」は、義務が完全には果たされていないことを示し、すなわち a wrong, unwarrantable action (間違った、不当な行為) の意味となる。「あなたに対して済みません」は I have not done my duty by you (あなたへの義務をまだ果していません), have not acted rightly by you (まだ十分にあなたの役に立っていません) の意。
37. 一話し切る；「切る」は動詞と複合した場合、その行為が徹底していること、あるいはその行為の度合いが強いことを表し、分詞+「しまう」の用法と同じ意味になる。例えば「分かり切る」は to understand completely (完全に理解する) の意味、「乗り切る」または「乗っ切る」は to ride at full speed (全速力で乗る) の意である。
39. 一種, seed の意。stock (備蓄) の隠喩。
40. 一直訳は As-for that man, [he] does-not-become even talk.
41. 一尾籠びろう (漢語) な, indecent (品の悪い), dirty (下劣な) の意。この文のような前置きや、「尾籠ながら」although indecent という前置きがなされたならば、上品な人々の間にそのような話は存在しないということである。
43. 一面白い, interesting (興味深い), amusing (楽しめる), pleasing (心地よい), proper (そ

- の場に相応しい) の意。「面白くない」は *unpleasing, uninteresting* の意。直訳は *Is there-not any amusing story?*
44. 一よっぽど、「余程」の卑俗な発音で、「余程」は「余」(漢語) (和語で言えば語根の「あまり」*excess* に相当) と「程」*quantity* の複合語。
46. 一方 (漢語), *side* (側、方) の意。話をする方と、話をしないで黙っている方とを区別している。この *alternative* (二者択一) の意味での「方」の用法は、中国の *yin* (陰) と *yang* (陽) の理論 (日本語では「いん」と「よう」) にいくらかのつながりがあるように思われる。その考えによれば、全てのものは相反するものや相関するものを持っており、それらは肯定的な形態と否定的な形態を有し、中立的な境界の両側に相対して存在していると考えられている。直訳は *useless talking to-do (rather) than, to-be-silent side is-good, that [I] think.*
47. 一実は、(直訳は) *as to [the] truth [of the matter]*. 「は」は「実」を強調している。
49. 一それっきり、「それきり」*that only* の口語表現。

第9章 (EXERCISE IX, p.60)

1. 一行かない、「行く」*to go* の否定の直説法現在形で、*will not do* (…してはならない、良くない) や *is unsatisfactory* (不十分である) を意味する可能法としての「いけない」と同様に用いられる。とさ; 「と」は引用の助詞。「さ」は指示助詞 (*demonstrative particle*) で、ここでは「言います」*says, or say* と同義で用いられている。
2. 一ついて、古語「説く」*to say, to tell* の転訛したものとされている「つく」の分詞。いらあは、「いる」を強調した「いるは (*iru wa*)」の転訛したものと見られる。この表現は *coolies* (人足) の会話においてのみ用いられ、その階層の人々の間では一般的な表現である。
4. 一こそ、*particularly, especially* (特に) の意で、この文の主語に強調を与えている。「お前は嘘つきだ」のような文に回答して、*you are a liar, not I* (私ではなく、あなたこそがうそつきなのだ) と言っている。
6. 一あいつ、指示詞語根「あ」*that yonder* (あそこの) と「やつ」*fellow* とが縮約したもの。どうもならん、*really won't do* (本当に良くない) の意で、(訳者注：この例文の直訳は) *he telling lies really won't do* となり、すなわち *he is such a liar that it really won't do* (彼はあまりに嘘つきで本当に良くない) の意となる。江戸の人々は大抵、「ならん」の代わりに「行かない」と言い、「どうもならん」の代わりに「しようがない」と言う。
8. 一言いつける(「言う」*to say* の語根と「つける」*to apply* から) は、*to tell to* (…するように言う)、*to inform* (知らせる) の意で、それゆえ *to order* (命令する) の意にもなる。
9. 一(直訳は) *Though [you] tell [him it] is-good.*
10. 一なぜ、*why* の意。
11. 一直訳は *[The] not doing (sen'no wa) as [I] told [you] what sort-of thing is [it]?*

12. 一後(漢語), after の意。「この後」は after this, in future の意。「その後」は since that time の意。談じつける, 動詞「談ずる」(「談」(漢語)と「する」) to speak to の語根「談じ」と「つける」to apply から。to speak strongly to (…するように強く言う), to give injunctions to (…するように命令する) の意。
13. 一直訳は Having talked [to him I] will-see (what effect my talking has).
15. 一申したい, 補助動詞「申す」to do から派生した願望形容詞。直訳は There-is [a] subject [which I] desire-to-talk-upon [to you] で、敬語の「お」は to you (あなたに) という意味を持つ。
16. 一ほか, other places (他の場所), elsewhere than here (ここ以外の場所) の意。喋っちゃは「喋っては」のことで、「喋る」to chatter (お喋りする), gossip (噂話をする), blab (秘密を漏らす) から。「喋くる」は「喋る」の卑俗な言い方で、「ぺらぺら喋くって」は、chattering like a flock of magpies (カササギの群れのようにやかましくお喋りして) の意。直訳は Going elsewhere must-not chatter.
17. 一やかましい, noisy の意味であるが、needlessly strict (必要以上に厳しい) の意味でも用いられ、叱責に対して言い返す際に用いられる。(例文の) 直訳は Noisy! must not chatter. である。辞書では大抵 noise の同義語として「音」が載せられているが、日本人は「音を^{おと}する」(学習者はこれを to make a noise (騒音を立てる) の意味と想像するだろう) の代わりに動詞「騒ぐ」または形容詞「やかましい」や「騒々しい」を用いる。There is an noise, or sound を意味する場合は「音がする」であって「音がある」とは言わない。「二階に大変の音がした」は there was a tremendous noise upstairs の意味である。(その場合は自然に起った騒音である。もしその騒音が、例えば下僕によってなされたようなものであれば、「二階に(訳者注:「が」の誤りか) 大変に騒々しかった」と言う。)
18. 一ひどい, 卑俗な意味での terrible (ものすごい) の意。お喋り, a chatterer (お喋りな人) の意。不必要な「お」がついていることによって、この文は、あたかも女性の口から発せられたものであるかのように聞こえてしまう。(訳者注: しかし実際は男性の発話であることに気をつけよ、の意。)
19. 一他言; 「他」(漢語) to others と「言」(漢語) to say から。この文は、紳士に秘密を守るように依頼する丁寧な言い回しであり、他に「ご他言の無いように願います」という言い方もある。卑俗な言い方としては「言いつけちゃ行かない」「言い漏らしちゃ (iimoras'tcha) 困る」がある。
21. 一言われる, 「言う」to say の受動態。(訳者注: 「言われて」は) being told すなわち having such a thing said to one (そのようなことを言われてしまって) の意。いられません, 「いる」to be の可能法の丁寧形(訳者注: 「いられます」) を、さらに否定の直説法現在形にしたもの。
22. 一当人(漢語), 直訳は this person で、he や she に相当し、話題にのぼっている人を指す。掛け合う, to discuss with (…と議論する), consult with (…と相談する) の意で、取り決めを必要とする事柄について話しかけることをいう。

23. 一ひとつ (shitotsu), 「一度」(訳者注: 原文 ichidô は ichido の誤りか) once の卑俗な言い方。この語はしばしば正式な助数詞の代わりに用いられる。例えば、「お茶一杯」の代わりに「お茶一つ (shitotsu)」と言うように。
25. 一どっか, 「どこか」some where or other の口語的縮約形。人殺し (shito-goroshi); 「人 (shito)」 person と「殺す」 to kill から。殺人の意味と殺人者の意味とがある。そうだ; (直訳は appearance is、すなわち it appears that の意味。(訳者注: この注釈の記述では「そうだ」について伝聞用法の把握がなされていないように見えるが (第 5 章 13 番の注釈を参照)、Part I の英訳文では I hear there was a murder somewhere last night. となっており、伝聞の解釈がなされている。(第 12 章 10 番も同様。) 第 12 章 3 番の注釈では伝聞用法の説明がなされている。)
26. 一挨拶 (漢語), answer の意で、それゆえ、どのように返答するかといった知識や (訳者注: 原文は to が重複している)、公民として一般に身につけるべき礼儀正しい話し方、通りで人に会った際のお辞儀の仕方やその他注意すべき礼儀全般についての作法をさす。
28. 一返答 (漢語), answer の意。「返」(漢語) to return と「答」(漢語) to answer から。です、「でござります」の一般的な省略形。直訳は how is your (o) answer?
31. 一一番。直訳は number one で、chief (第一位の) の意。最上級の標示としても用いられる。しかし、後者の用法 (訳者注: 最上級のこと) としては「至って」を使う方が良い。口を利く; to speak の意で、それゆえ to be influential (大きな影響を及ぼす) の意となる。
32. 一なぞ, kind-of の意で、人のことをやや蔑視する言い方であるが、時折二人称代名詞の後にも用いられる。(訳者注: 「わたくしなぞ」の) 直訳は an individual of my kind で、a humble person like myself (私のようにつまらない人間) の意。「なんぞ」や「など」も「なぞ」と同義である。
34. 一口を出す, (直訳は) to put forth mouth, i.e. words で、to speak の意となる。(jaw のスラング表現のように。)
35. 一言い出しちゃ (lidas'tcha), 「言う」 to say と「出す」 to give forth, put forth の複合語「言い出す」から。「出す」を二番目の要素にもつ複合動詞はしばしば英語の副詞 out の意味を持つ。例えば「引き出す」 pull out、「追い出す」 drive out のように。また同様に、「込む」 to enter を用いる複合動詞は英語の in の意味を持つ。例えば「挟み込む」 to tuck in (a bed)、「いせ込む」 to tuck in (a dress) のように。この文は it would be useless (無駄である) または it would be improper (不適切だ) などの意味にも取れる。
36. 一最初 (漢語), (直訳は) very first で、at first の意 (「もっともはじめ」ということ)。「か」の前にあるべき「だ」が省略されている。
37. 一当たる, 直訳は to hit で、すなわち to be equivalent to (…に相当する) や to correspond to (…に該当する) の意。
31. (訳者注: 38. の誤り) 一つまらない, useless (無用な), unreasonable (不当な), offensive (無礼な) の意。言いかける, to adress to (話しかける) の意であるが、to begin to speak (話

し始める) の意もある。

39. 一ところ、直訳は place。「で」を伴って about to (今にも…しかけていて), on the point of (まさに…しかかって) の意となる。(直訳は) It was [just] (訳者注: 冒頭の ERRATA で [just] を just に訂正) the place [in the conversation] [where I was going] to commence-to-say that.
40. 一ぶっつけに、suddenly (突然に), without notice (不意に) の意で、恐らくはぶちつける to strike と関連する語であろう。
41. 一時分 (漢語) (直訳は division of time), point of time (時点), occasion (場合), moment (機会) の意。評判 (hioban) (漢語), report (噂), reputation (評判) の意。それゆえ「評判する」は to be reported (噂される), to be a subject of report (噂的になる) の意。
42. 一このたび、「この節」 lately (最近) や of late (最近) と同義の語。いろんな、「いろいろな」 of all colours or sorts の縮約形。
43. 一大評判 (o-hioban), 「おお」 great と「評判」の複合語。
44. 一風説 (漢語) (直訳は wind talk), rumour, report (噂) の意。
45. 一大抵 (漢語) (直訳は the greater part of the whole), for the most part (大部分は), mostly (ほとんどは), most probably (大抵は) の意。虚説 (kiosetsu) (漢語) (直訳は vain or empty talk), a report without foundation (根拠を持たないうわさ), a falsehood (虚偽) の意。
46. 一風聞 (漢語) (直訳は wind-hearing), 「風説」の同義語。

第 10 章 (EXERCISE X, p.64)

1. 一御覧 (漢語), sovereign (君主の), august (尊い) 等の意の「御」と to see, to look の意の「覧」(漢語) との複合語。looking または seeing の行為をさす。この「御」を使用することにより、代名詞を使用する必要がなくなる。「御覧」は、話し手自身が見る行為に対しては決して用いられない。その場合は「拝見」を用いる。4 番を見よ。
2. 一一覧 (漢語), 「一」 (漢語) one と、「御覧」と同じ「覧」(漢語) の複合語。から, from, after の意。直訳は Shall [we] make [it] into a thing of after [you] have seen [it]. 「御一覧なすつて (nas'tté) から」が「こと」に係る連体修飾語句となっている。
3. 一御覧に入れる、直訳は to put into the august looking で、転じて to show you の意となる。参じるまたは「参ずる」 to come は、和語「参る」に相当する「参」(漢語) と「する」との複合語。
4. 一拝見 (漢語), うやうやしく見る行為をさす。「拝」(漢語) は和語「拝む」 to adore (崇拜する) の意、「見」(漢語) は和語「見る」 to see の意。
5. 一相成るべくは、if it be possible (もしできるならば) の意。「相」は単に語調を整えるためのものであるが、とても丁寧に対応したいと思う日本語母語話者はどんな動詞の前にもこれを置く。「成る」は to be の意。「べく」は語根「べ」の副詞形で (Aston 文語文典の p.67 を参照)、書簡文体において未来形や可能法、命令法を作る際に後接する。「は (wa)」は

他と区別することを示す助詞である。

6. 一 どうかは「どうぞ」と同じ方法で作られた複合語で、「どう」how と疑問の助詞から成る。how (どうであろうか) の意味で用いられる以外には、pray! (どうぞ、願わくは) の意として用いられることがあり、その場合は「どうぞ」よりもくだけた表現となる。仰せつけて、「言いつける」(第9章8番)のように、古語「仰せる」to say (目上の人に用いられる) と「つける」to apply の複合語「仰せつける」to command (命令する) から成る。to grant (承諾する、願いを聞き入れてやる) の意味にも用いられる。
8. 一直訳は Have-seen-ness is not, the having seen is not.
9. 一 かくかに, indistinctly (不明瞭に、ぼんやりして), hazily (漠然として) の意。「霞」^{かすみ} haze or haziness と関連する語である。
10. 一直訳は [It] does-not-suffice for looking-at.
11. 一直訳は May [it] probably be seen (*miraremashô ka*) by us also.
12. 一 (直訳は) [The] not-getting-being-seen probably-does-not-exist.
13. 一 医者 (漢語), 「医」(漢語) medicine (the art) (医学) と和語「もの」a person に相当する「者」^{しや} (漢語) の複合語。診てもらうは「診てくれる」の相関語で、医者^{しや}の診療行為を指し示している。「もらう」も「くれる」もこの場合は補助動詞である。
14. 一 聞き学^{がく}, 「聞く」to hear と「学」(漢語) to learn (和語は「まなぶ」) の複合語で、直訳は hear-learning である。「見学」^{みがく} も同様に「見る」to see から成る複合語である。
15. 一 悪いことするのは; 動詞の名詞用法で、(直訳は) [the] doing bad things である。^{かみすりど} 剃刀砥, 「かみすり」a hair-shaver, razor の卑俗な言い方である「かみすり」と、「砥ぐ」to sharpen と関連する「と」から成る。みたような (「このような」this sort of と似た表現) は seen sort-of, looking-like の意。では being の意で、すなわち 'is, and,' の意。より完全な表現である「であって」と同義。たんびに, 「たびごとに」on every occasion that の口語形。独立した表現としての on every occasion の場合は、「毎度」^{まいど} (漢語) によって表される。はたに, at the side (傍らに), close by (そばに) の意。付いて, 「付く」to be close at (…の近くにいる) の意。「はたに付いていて」は being close by (そばにいて) の意。減った, 自動詞「減る」to diminish (減少する) の直説法過去形。(他動詞としての diminish は「減らす」。) 違いはない, there is no mistake (間違いはない) の意。「違い」は「違う」to differ, be wrong の語根。名詞の mistake の意味には、通常、「違い」ではなく「間違い」が用いられる。このフレーズの直訳は、[the] doing evil, is [a] thing as if [one] saw [a] razor-hone, and every time [one] uses [it] though, in spite of [one] looking at [it] being by, [the] thing called has-diminished is not visible, there-is-not doubt that [it] goes diminishing. である。すなわち The idea being that doing wrong grows imperceptibly upon a man, in the same way as the hone lessens in size. (悪いことをしようとする考えは気づかれないほどかくかにその人の中で大きくなって行くが、それは剃刀がだんだん磨り減って小さくなって行くのと同じようなものだ) という意味である。

16. ーおおきゅう (okiu), 「大き」big の語根に由来する副詞「おおきく」の京都方言形。「おおきゅう (ôkiu) なるのは」は the becoming big の意で、「目に見えん」は is not visible to the eye の意。この文とその前の文は『心学道の話』から採っている。(訳者注：奥田頼杖講話・平野橘翁聞書、天保十三、1842 年平野橘翁序刊。15 番は同書二編中 2 オ 5 行目の「又わるい事するのは髪そり砥石見るやうなもので遣ふたびへ側について見て居ても。あれほど耗たといふ事が眼に見へはせぬけれど耗てゆくに。ちがひはない」に該当し、16 番はその直前の「大きくなるのが眼に見へはせぬけれど大きくなるにちがひはない」に該当するが、『会話篇』Part I の例文とは幾分異なっている。)
17. ー目に立つ, 直訳は to stand to the eye で、to attract attention (注意を引く) の意。背は普通、「なる」to grow を意味する漢字とともに書かれる。(訳者注：「成」を意図しているものと思われるが、誤りであろう。)
18. ーお目にかける, (直訳は) to hang on to the august eye.
19. ー細くて, being fine, small の意で、「細くあって」に同じ。目にかかる, 直訳は to hang on the eye で、to be seen の意。「くらい」, quantity (分量) の意。(この文の直訳は) Being small, it is a thing of such a (small) quantity as is not visible to the eye.
20. ー止まる, 直訳は to stop (自動詞)。(この文の直訳は) Is there not an article which stopped in your eye.
21. ー目通り, interview (会見), audience (接見) の意。「目」eye と、「通る」to pass through の語根との複合語。
24. ー都合 (漢語), altogether (全部で) を意味する二つの中国語 (訳者注：「都」と「合」) から成り、しばしばそのような意味で使われる。例えば「都合いくら」how much altogether (全部でいくら) のように。この語は、components of a thing (物事の構成要素)、すなわち arrangement (配合) も意味する。したがって、a good arrangement (「良い都合」) は convenience の意味である。この文は、if that can be known it is greatly a convenience (もしそのことがわかったらとても都合がよい) を意味する。
25. ー神代 (漢語), 「神の代」the age of the gods の意味の漢語で、先史時代のこと。所持 (漢語), 「持つところ」(ただしこの言葉は使われない) that which is held, possessed の意。それゆえ a possession (財産), a piece of property (所有物) の意である。「所持の物」thing possessed とも言う。直訳は [One] does not know whether (ka) [it is] perhaps (mo) a possession from the age of the gods.
27. ー顔 (kawo), face の意で、「知らない顔」(の直訳) は a not-knowing face。(この文の直訳は) was doing [a] not-knowing face.
29. ー御存じ. 「御」は august (尊い) の意味の敬語で、丁寧な発話において二人称代名詞の代わりとして用いられる。「存じ」は「存じる」または「存ずる」to know の語根。
31. ー承知 (漢語) は時折 consent (承諾) を意味するが、ここでは knowledge of (…を知っていること) の意味である。

32. 一直訳は was [it] understood?
37. 一直訳は a thing of which the reason is not comprehended. 「わけがわからない」が「こと」に係る連体修飾語句になっているので、「が」に代わって「の」が用いられている。
38. 一説き諭す, to explain (説明する) の意。「とく」to loosen (解く), to explain (説明する) と「諭す」to inform (通知する) から成る。
39. 一わからんけりゃ (wakaran' keria) = 「わからぬければ (wakaranu kereba)」。
40. 一フランス (furansu) は France という語に対して日本人がなしうる最も近い発音である。語 (漢語) は「ことば」language の意。
41. 一取り調べる, to make inquiries (調査する) の意。「取り」to take には強意の働があり、took and gave him a beating (彼をぶったたたいた) のような卑俗な言い回しの take に似ている。(訳者注: 第 8 章 16 番にも同様の指摘がある。)'調べる'は to examine の意。この文はしばしば、ただ単に不快な会話を先延ばしにするために日本人が使うもので、その場合には inquiring (調査) しようという気はない。
42. 一いきなりに, (訳者注: Part I の例文は「いきなり」)'いき' to go と 'なり' form (形), manner (方法) から。ある話題について、あたかも誰かの方が先んじていて、生まれて初めて着手したとは思われないような方法で、の意。それゆえ、事前の照会もなく、の意。
43. 一わかった, 実際には「わかる」の過去形 to be comprehended であるが、慣用的に intelligent (聡明な), reasonable (道理をわきまえた) の意味として用いられる。
44. (訳者注: 45. の誤り) 一講釈 (漢語), explanation (説明) の意で、to explain 意味の二つの語 (訳者注: 「講」と「釈」) から成る複合語である。「講釈する」は to explain の意。この語はまた、下層階級の者たちが集まってよく行われる、ある種の娯楽の意味にも用いられる。そこでは歴史説話が語り評されるが、広く一般に lecture をさす語としても用いられる。
46. 一心得違ひ, misconception (思い違い) の意。「心得」は「心」heart, mind と「得る」to obtain の語根「え」との複合語で、直訳は getting of mind、転じて a conception of a matter (物事の考え方) や an understanding about it (それについての理解), an idea (考え) ('その心得でおるように言っておけ' tell him to understand that, to bear that in mind といった例文における) の意となる。また、the impression that (…という印象) の意味でも用いられる。「心得る」は to be under the impression (…と感じる) の意。それゆえ全体の語の意味は a mistaken impression (間違った観念), a misconception (思い違い) となる。政府の布告において、法令違反者がしばしば「心得違ひの者」と呼ばれ、間違った観念のもとに行動する者や犯罪そのものは「心得違ひ」と呼ばれる。
47. 一了簡 (rioken) (漢語) は「心得」と全く同じ意味の語である。この語は「悟る」to know および「分かつ」to comprehend を意味する二つの語 (訳者注: 「了」と「簡」をさす) から成る複合語である。

48. 一思わっしゃる；「思わせられる」の転訛で、「思う」to think の丁寧形。「おっしゃる」や「いわっしゃる」と同様に作られたもの。
50. 一君^{きみ}、直訳は prince の意で、二人称単数の代名詞として、特に知識階級層の間に用いられる。「僕」(漢語) slave はそれに対応する一人称代名詞である。思し召し、「了簡 (riôken)」idea, intention の丁寧な語である。
51. 一見込み, intention, plan, opinion の意。
52. 一合点^{がてん}が行く, to understand の意味の慣用句。理解できないことは「合点の行かないこと」という。「行く」の代わりに「参る」が使われることもある。
53. 一見立て, 「見立てる」to select の語根。その意味はスラング表現の to spot (目星をつける) にとても近い。また、旅立つ人を見送る意にも用いられる。
55. 一存じより, opinion (意見), sentiment (感想), view (考え), objection (異議) の意。
57. 一つくは「思いつく」to have come into one's head の「つく」に類似しており、「思う」to think と「着く」to arrive から成る。
59. 一勤考 (漢語) する, to consider, ponder over (熟考する) の意。

第 11 章 (EXERCISE XI, p.69)

[この章では一人の外国人と様々な日本人が登場する。]

1. 一いらっしゃる, 「入る」to enter から作られる「いらせられる」の転訛で、「思う」から「思わっしゃる」を作るのと同じ方法で作られる。この表現は、「おいでなさる」と全く同じ意味で用いられるが、それよりも丁寧な表現と考えられる。丁寧形の「いらっしゃります」は大抵「いらっしゃいます」と転訛する。ちょうど「ござります」が「ございます」に転訛するように。
2. 一直訳は Kawasaki as-far-as how-many ri, may- [it-] be?
3. 一次の, next の意。「次」は「つぐ」to join の語根。宿 (shiku) (漢語) は「しゆく (shiuku)」a post-town の江戸訛りである。複数形は「宿々 (shiku jiku)」。
4. 一もし, I say! (おい、ちょっと、あの) の意で、「もしもどなたでございせんか」are you not perhaps Mr. so-and-so (ひよつとしてあなたは誰某さんではありませんか) の省略。
7. 一向こうの, opposite (反対側の), yonder (あそこの), ahead (前方へ) の意。突き当たり, 「突き当たる」to hit against (…にぶつかる), to run straight against (…に突き進んでぶつかる) の語根で、ある道を進むことによって突き当たる場所を示す際に用いられる。直訳は [the] opposite place-struck what-place is?
8. 一道はここでは間接目的語であり、「を」はどちらかという「に」by に近い意味を持つ。直訳は if-[one] were-to-run-straight-ahead-against by this road, what place to does [one] come?
9. 一道を行くはちょうど英語でいう to go the road のような表現である。(この例文の直訳は That road if [you] go, [it] considerably loss becomes で、すなわち will considerably be loss (か

- なり損になる) の意となる。
10. 一直訳は By that (in that case) this round-about road? [one] does-not-know で、すなわち one does not know whether this may not be, etc. (これが回り道であるのかどうか知らない) といった意味となる。
 11. 一なんとは、文頭に來る場合、how long this road is! における how に相当する。この文においては、単に話し手が最初に入れ忘れたために、最後に来ているに過ぎない。このような倒置は、口語ではよくあることである。直訳は Fearful round-about road is [it] not, how?
 12. 一先^{さき}, end (先端), point (先端), foremost point (先端), front (最前部) の意で、属性を表わす助詞「の」が後接した場合は which is in front, ahead (前方にある) の意の形容詞の意味を持つ。直訳は From this [the] road which is ahead – how is [it]?
 13. 一至って, very の意で、「至る」to arrive at の分詞。それゆえ arriving at the extreme (極限に至って), extremely (極めて) の意。それに, (直訳は) to that で、すなわち in addition to that (それに加えて), and moreover (そしてさらに) の意。直訳は Yes. [It] extremely good is, to that [it] all flat-ground only [is]. 「で」の後にあるべき「ございます」が省略されている。
 14. 一近道は「近い道」near road のことである。(Aston の§ 31 を見よ。) どうしても, any how (とにかく), in any case (いずれにせよ) の意。直訳は this near-road's fashion is で、すなわち looks like a near road (近道のように見える) の意。
 15. 一直訳は From this mountain-road being, extremely bad is.
 16. 一直訳は Road being-narrow difficult-to-pass-along is. 動詞語根の後につく形容詞語根にくは、その行為が困難であったり不愉快であることを意味する。例えば「わかりにくい」は difficult to understand の意、「見にくい」は disagreeable to see (見るのが不快だ), ugly (醜い), displeasing to the eye (目を不快にする) の意であるように。
 18. 一直訳は Tōkaidō from having gone alternative (hō) after-all profit will-be. (直訳の) after all (結局) は、(訳者注: Part I の英訳文には nevertheless とあるものの) この位置にある場合、nevertheless (にもかかわらず、やはり) と訳すよりも適切であろう。
 19. 一上^{のほ}と下^{くだ}るは京都 (Kiōto) に上ったり下ったりする場合に用いられたが、これらの用語は恐らくもう江戸を基点にするよう変更されているものと思われる。というのも江戸は、東京(Tōkiō)または東京(Tōkei) Eastern Capital の名のもとに、新たに首都として認められ、君主 (sovereign) の居住地となったからである。
 21. 一直訳は Tokaidō (訳者注: 例文は Tōkaidō)'s outside in Kamigata to ascend road will-there-be? 「上方」の直訳は top-side.
 23. 一直訳は Hakoné's barrier as-to [they, the guard] strict are-probably. 関所, 「堰く」to bar (扉に門をさす), dam (ダムを作って流れをせき止める) の語根と「所」(漢語) place の複合語。
 24. 一(訳者注: 「左様さね」の)「さ」は、「行かないとき」(第9章1番)の「さ」に同じ。ねは話し手の心のある種のためらいを意味する。彼は全面的に非難するような返答をしたくないので、「まあ」云々と続けている。「まあ」以下(の直訳)は、well, passport

without (*nashi ni*) cannot-pass extent's affair since [it] is.

25. 一直訳は Frightful really road bad-is.

26. ー you can't path の意を表わすには「通れない」という表現の方が正確であるが、日本人は同じ語根から来る自動詞（訳者注：「通れる」）と受動態（訳者注：「通られる」）とを、よく混同する。（訳者注：第2章16番において、「売れる」が他動詞「売る」の自動詞形であるとし、さらにそれを可能法としての用法と呼んでいる。よって、他動詞「(…を) 通る」の自動詞形が「通れる」であると考え（かつ可能法として用いていると考え）、「通られる」は「通る」の受動態と考えているのであろう。しかし、この時代の「通れない」という表現は、五段動詞「通る」を可能の意味にする際に、可能動詞形「通れる」を用いずに、可能の意味の助動詞「れる」（古語の「る」から変化したもの）を付した、やや古風な可能表現を用いているに過ぎない。この時代はまだ可能動詞形の使用が定着していないので、「通られる」も至極一般的な形であり、混同 (confusion) という表現は当たらない。) 直訳は Because that-place in water collected is, [it] is-not-passed.

27. ーあっちは第5章21番の「あちら」に同じ。（訳者注：“外国”の意味としての「あっち」「あちら」であることを述べている。）

28. ーその一町いっちょうと申すは, that which is called a *chô* の意で、「一町は」 a *chô* という表現をより明確にした表現である。里り（漢語）は数詞と組み合わせ用いても変化しない。町ちやう（漢語）は「一町」 one *chô*, 「十町」 ten *chô* を除いて規則的に作られる。尺（漢語）は「一尺」いっしゃく 「三尺」さんしゃく 「八尺」はっしゃく 「十尺」じっしゃく one foot, three, eight, ten feet において不規則に作られる。すなわち, (推定する際の) then の意であるが、口語では減多に用いられない語である。

29. ー私わたしの方ほうの, (直訳は) my side's で、ここでは my country's の意。

32. ー直訳は No. My calculation by forty *ken* there is difference.

33. ー伸びている, is long (長い) の意で、自動詞「伸びる」 to lengthen から。ここでの「伸びて」は（訳者注：継続相ではなく）完了相 (perfect) の分詞であるように見える。（訳者注：「伸びている」が、「現在も伸びつつある」という継続相ではなく、「現時点でかなり長く伸びた状態にある」という完了相であるように思えることを述べている。）

35. ー直訳は Last-night rain fell , and-therefore (*kara*) awfully road bad has become.

36. ー直訳は To-day going-and-coming people's numerousness! これ（訳者注：文末の「こと！」をさす）は、形容詞と感嘆符が後に来る how を表わす最も一般的な形式である。

37. ー参詣（漢語）は visiting a temple, etc の意。「参詣する」は to visit a temple, etc の意。

38. ーそうかもしれない；直訳は thus? even [it] is-not-known で、すなわち it cannot be known (for certain) whether it is not so (but I rather think it is). (そうでないかどうかなど（はっきりとは）知りようがない（が、私はどちらかというところだと思ふ）) の意となる。

30. (訳者注：39. の誤り) ー弘法大師（俗に「大師さま」と呼ばれる）は、僧「空海」の戒名で、真言宗 (Shingon Shiu) と呼ばれる仏教の宗派の開祖である。この高僧を崇拜する寺院は日本中で非常によく見られる。命日めいにち（漢語）、直訳は life-day で、一人の人の生涯が終わ

- りを迎えた日（の記念日）をさす。
40. 一案内をする, to guide の意。「案内」は guiding (案内すること) の意味と同様、a guide (案内する人) の意味にも用いる。
42. 一曲がる, 自動詞で to bend (曲がる), turn (曲がる) の意。直訳は This from three *chô* beyond's place at the-left to-turn cross-street there-is, and that-place to entering that from again the-right to turning straightly going [it] is. 行く^いくん (「行くの」のこと) は「行く者」 a person who goes と同義であるとみなされよう。すなわち you are a person who goes (あなたは行く者です), you must go (あなたは行くべきです) の意となる。
44. 一どいたり (訳者注: Part I の例文は「どいたら」と誤る), 自動詞で、to get out of the way (通り道から離れる) の意の「どく」の反復相であるが、命令法として用いられている。この反復相の用法はとても稀である。これ; 怒りを表わす間投詞 = Here! (こら!) として用いられる代名詞である。
45. 一往来, way! の意。(訳者注: Part I の英訳文は Make way, make way. (道を空けろ) となっている。)
46. 一寄る, to approach の意で、「脇へ寄れ」は approach [the] side すなわち go aside の意。この文とこの前にある二つの文 (訳者注: 44, 45, 46 番の例文) は、人込みの中、主人のために道を空けようとする従者によって使われているものであろう。この後の二つの文 (訳者注: 47, 48 番の例文) は自分自身のために道を空けようとしている文である。
49. 一左側, 「左」left と「側」side の複合語。干し店, 直訳は a sun-drying shop で、goods spread on a mat on the earth (地面に敷いたござの上に品物を並べる店) のこと。が、42 番の例文のように、and と訳されるべき語である。
50. 一普請中 (fushin chiu), 「普請」(漢語) building (建造), repairing (修理) と「中 (chiu)」(漢語) inside of, whilst (…の間) の複合語。同様の複合語はたくさんある。例えば「吟味中」 under examination, 「修復中」 under repair, 「応接中」 in the middle of a conference, 「御膳中」 at dinner, breakfast など。往来止め, 「往来」(漢語) thoroughfare (道路), going-and-coming (行き来), traffic (通行) と他動詞「止める」 to stop の語根との複合語。「往来止めだ」は「そう」に係る連体修飾語句である。
51. 一道理 (漢語), reason (理屈) の意。「道理で」は with reason (…するのをもっともだ), with good reason (無理もない), no wonder that (なるほど), that's why (なるほど) の意。仮橋は「かりはし」 to borrow (借りる) の語根「かり」(provisional (暫定的な), temporary (臨時の) の意味に用いられる) と、「橋」bridge から。架かる, 自動詞で、to span の意。目的語の後に「に」を取る。「川に橋を架ける」は to throw a bridge across a river の意。
52. 一舟の出るうち, (直訳は) whilst the boat comes forth (ボートが出て来るまでの間) で、すなわち is being got out (ボートが出されようとしている) の意。ちと, 「ちっと」に同じ。直訳は boat's is-being-got-out whilst a-little having-rested [we] will-proceed.
53. 一随分 (漢語) 直訳は to be in accordance with *bun* (「分」は circumstances (境遇), position (立

場), duty (本分) の意) で、それゆえ properly (徹底的に), considerably (かなり), (副詞としての) pretty (相当), as much as possible (できるだけ) の意。

第 12 章 (EXERCISE XII, p.75)

[話者は商人階級に属する立派な人々である。]

1. 一音がする, (直訳は) there-is [a] sound. (第 9 章 17 番を見よ。) どっちは「どち」のこと。「どっちの方」は (直訳が) where's side で、what quarter (どちらの方角) の意。しらは「知らぬ」 know-not のことで、その最後の音節が脱落したもの。直訳は Fire-bell's sound there-is. [The fire what side, [I] do-not-know.
2. 一で、「出る」の語根で、the issuing-forth (出発すること), turning-out (of the firemen) ((火消したちの) 出動) の意。かかる, 自動詞で to commence (始まる、始める) の意。
3. 一とお、「遠い」 distant の語根。そう (漢語) (訳者注:「相」), appearance の意。「遠そうだ」は it seems to me to be distant (私には遠いように思われる) の意。「遠いそうだ」は it seems that it is distant (それは遠いように思われる)、または I hear or, am informed that it is distant (それは遠いと聞いた、あるいは知らされた) の意。前者は事実であると信じる意味合いを含むのに対し、後者はその事柄が事実であると信じることを保留する意味合いを含む。(訳者注: 第 5 章 13 番および第 9 章 25 番の注釈では伝聞用法の「そうだ」の説明がなされていないが、ここでは簡略ながら説明されているものと受け取れる。また、第 9 章 25 番や第 12 章 10 番の英訳文は伝聞の訳文となっている。)
4. 一 (直訳は) Shimmei-maë's side red seems.
5. 一焼けなけりゃいい (Yakenakeriya ii), (直訳は) if [they] do-not-burn (i.v.) [it] is-good. 条件法現在形に「よい」が続いたものは、hope (…であればよいと思う) の考えを表わす最も一般的な方法であるが、動詞には hope と全く同義になるような語は無い。「焼ければいい」は I hope they'll burn の意、「焼ければいいと思った」は I hoped they would burn の意である。他動詞「焼く」と自動詞「焼ける」を区別するよう注意が必要である。
7. 一 (直訳は) As-to [the] wind, since [it] is north-east-wind as-to yonder side to-be-anxious-about things there-will-not-be.
8. 一あわあ食って、「あわあ食う」 to be in a flurry (慌てている) の分詞で、「慌てる」と同じ。「あわを食う」も用いられる。直訳は Here! [it]-is-dangerous. Pay attention. Being-in-a-flurry look-out from to-fall-down will-not-do. 火の見は恐らく「火の見どころ」 fire's looking-place の省略であろう。
9. 一若い衆 (wakaishi), 「若い」 young と「衆 (shiu)」 (漢語) all の複合語「わかいしゅ (wakaishiu)」の江戸訛りである。「衆 (shiu)」は身分を表わすために名詞に付く接尾辞の一種として用いられる。例えば、「子供衆 (kodomo-shiu)」 children、「別手衆 (betté-shiu)」 the corps of betté、「役人衆 (yakunin-shiu)」 the officials のように。ただし、この語では形容詞と複合

- している。下層階級の若い男を呼ぶのに親しみを込めて言う方法である。
10. 一 出たそう, 第5章13番を見よ。
12. 一 出切らない, 「出る」 to issue から作られる「出切る」から来る語で、「話す」から来る「話し切る」(第8章37番)と同様である。直訳は it appearing that (*sô dé*) the firemen (*hikéshi*) have-not-(*nai*) yet (*mada*) turn-out-completely (*dé-kira-*), [they] pass (*tôru*) shaking (*futté*) [their] standards (*matoi wo*).
13. 一 なんとは、ここでは単なる I say という叫び声に過ぎない。火事場, the scene of the fire の意。「火事」(漢語) fire と「場」 place から。直訳は I-say, paying-a-visit-of-sympathy at-the-same-time [the] fire-spot to going [we] will-see is-[it]-not?
14. 一 さあ, come along! の意。何かをしようと誘う感嘆詞である。
15. 一 小僧, 小さな子供の下僕を呼ぶのに用いる語である。「火事羽織」, 火事場で着る丈の短い外套。「羽織」は動詞「羽織る」 to put over the shoulders (肩にかけて着る)の語根で、具象名詞 (a concrete noun) として用いられる。(訳者注: 前半部分の) 直訳は Here! small-priest; don't [you] get-out [my] fire-coat?
16. 一 いまいましい, provoking! (じれったい!) の意。「忌む」 to dislike から派生した。
19. 一 騒ぐは to be alarmed (不安に思う) の意というより、どちらかという to be excited (興奮している) の意である。(訳者注: Part I の英訳文では alarmed が用いられている。) 無難 (漢語) («無」 not と「難」 misfortune の複合語), safety (安全), being safe (安全であること) の意で、損失や損害から免れていることをいう。めでとう, 「めでたい」 fortunate (幸せな), auspicious (吉兆の) の副詞である。「めでたい」は古語動詞「めづる」 to love, admire の願望形容詞で (訳者注: 願望形容詞は「行きたい」「申したい」のようなものを指すので、これを願望形容詞と呼ぶのはやや穏当性を欠くか)、語尾の「たき」はそれがもともと持っていた very の意味 (訳者注: 「愛で甚し」の「甚し」のこと) を保持している。
20. 一 騒々しい, tumultuous (騒がしい) の意で、「一こと」は tumultuous-ness の意。漢語「騒」 noisy («騒動」 a disturbance に見られる) を重ねて、「恐ろしい」(第2章29番)に見られるような語尾「しい」をつなげて作られた語である。(訳者注: ここまでの文の) 直訳は Something really [it] is tumultuous-ness. こっで (kot'de) は「ことで」のこと。宅 (漢語), house, home の意であるが、「家 (iye)」や「人家」のような家一般をさす語ではなく、その人自身の家を指す。「宿」がその同義語である。風脇, 「風」wind と「脇」side の複合語で、(直訳は) side of the wind、すなわち away from the wind (風から遠ざかっている) の意。「しかし」は、第11章11番の「なんと」のように、フレーズの最初の位置からこの位置に倒置されている。その後、「お気遣いはございません」 there is nothng for you to fear (あなたが心配することは何もありませんね) という言葉を補って解釈されなければならない。
21. 一 (直訳は) O, greatly has burnt, but already burnt-out-fire (*shita-bi*) has become. 下火, 「下」

- bottom と「火」^ひ fire から。「鎮火」(漢語)はその上品な同義語である。
22. ー 飛び火, 「飛ぶ」to fly と「火」fire から。大火災の場所から他の場所へ飛び出した火のこと。「飛び地」a detached fragment of land と類似する言葉。「飛び火がした」は直訳が flying-fire has happened で、「音がする」there is a sound の類例である。
23. ー (訳者注: 原文、例文番号脱落) 土蔵^{つく}造りの, built like a mud godown (土で作られた倉庫のようにして建てられた) の意で、「土蔵」a mud-godown (「土」(漢語) earth と「蔵」(漢語) godown から) と、「つくる」to make or build の語根「つくり」fashion (様式), way of making (製法) との複合語である。類例として、「二階造りの」built in two-story style、「長屋造りの」built in a row、「御殿造りの」built like a palace がある。どこの、(直訳は) where's であり、一家が住んでいる場所をさす言い方であるが、個人の所有物をさす「誰の」という言い方よりも好まれる。かぶる, to cover over, to put on (頭に被る) の意。ここでは自動詞的に用いられている。
24. ー 二重馬簾^{にじゅうばれん}の, double fringed (二重の房飾りの付いている) の意。馬簾は幟に付けられた紙の房飾りである。組^{ぐみ}, 「組」band, society のこと。江戸の消防隊は音節文字表の文字によって識別されている。
26. ー 消し口^{くち}, 「消す」to extinguish (消火する) と「くち」a point of attack (突破口) から成る。「くち」の直訳は mouth, entrance である。取る, to take の意であるが、「選ぶ」to select の意で用いられている。
27. ー 見廻り, inspector (監察官) の意で、「火事場見廻り」an inspector of fires のこと。徳川將軍家の高官、大抵は「御使番^{おつかいばん}」すなわち aide-de-camp (副官) が行なう。銃頭巾^{しころずきん}, 「しころ」(ヘルメットのの一部で、首の後ろを保護するための箇所) のついた hood (頭巾) で、「しころ」は何層もの布を縫い合わせて作られている。かぶるは、ここでは to wear on the head (頭に被る) の意。
28. ー いや、驚きや苦痛、同情の感嘆詞。類焼^{るい}(漢語), 「類」(漢語) = 「たぐい」kind と「焼^{しょう}」(漢語) = 「焼ける」to burn の複合語で、他の家とともに多く焼けること。「類焼する」は to share in a conflagration (大火災の中で共に罹災すること) の意。気の毒 (訳者注: 原文は Kinonoku と誤る), (他人に対して) sorrow (かわいそうだと感じる) の意。「お気の毒で御座います」は I am sorry for you, I sympathize with you の意。「ことです」(is thing) またはそれに類する語句が、「な」の後から省略されている。さらに、二つ目のフレーズでは「事が済みましたからまず安心だ」などといった何らかの語句を補って解釈されなければならない。(訳者注: その場合の二つ目のフレーズは) but as the affair has ended without (*mo nakuté*) your being hurt (*o kega*) I am relieved from anxiety, as far as that is concerned (*madzu*) (しかしあなたに「お怪我」「も無くて」事が済んだので、そのことに関しては「まず」安心しました) という意味になる。
29. ー いいえ (liye) (訳者注: Part I の例文は「いえ (Iyé)」), no の意で、あらゆる慰めの言葉を放棄する表現。翻訳する場合には 'yes, but' で置き換える。それでも、(直訳は)

- even with that. 諸道具 (漢語), all [my] furniture の意。「諸」は (特定の名詞、特に中国語起源の語に前接して) all の意を示し、ある種の複数形を形成する役割をする。「諸職人」は the artisans、「諸商人」または「諸商人」は the merchants、「諸家」は the (noble) families、すなわち英語の nobility and gentry (貴族と準貴族) のような意味となる。「道具」, furniture (調度) や pots (鍋)、pans (皿) などのこと。直訳は even then, as all-[my]-furniture came-out, this by-itself is good-fortune.
30. 一直訳は Well, that is [a] splendid thing for you. Alas! as-to us even-to [the] things [we] got-out, [our property] burnt completely. いやもうは恐らく「いやもうたまらない」(直訳 no! any-longer [I] can't-restrain-myself)、またはそれに類似する失望の表現の省略であろう。
32. 一落ち着いた, settled down (落ち着いている), calm (落ち着いている) の意。「落ち着く」の直説法過去形。よう, appearance の意。(直訳は) even with [a] calm appearance at such times [as these] [any one] is [an] individual [who] gets-excited.
33. 一粗相火; 「粗相」(漢語) accident と「火」fire から。付け火は「付ける」to apply の語根から成り、applied fire の意。or の意味は、このフレーズのように、両方の選択肢の後に「か」を置くことによって表現するのが一般的である。例えば「犬だか、猫だか、知れない」you cannot tell whether it is a dog or cat のように。知識人であれば「あるいは」も用いるが、そういった人は漢文訓読のための用語 (word for word translations of Chinese idioms) を自らの会話の中に取り入れているのである。二番目の選択肢が最初の選択肢の動詞の打ち消しである場合は、その動詞の否定形が用いられる。というのも、日本語には not という語が存在しないからである。例えば I will go and see whether he be at home or not は「家に居るか居ないか見て来ましょう」となる。他の (訳者注: or の訳し方の) 例としては以下のようなものがある。I must make haste or I shall be late は「急がなければ (isoganakeria) 遅くなっていかない」(または「間に合いません」)。five or six years は「五六年」。seven or eight men は「七八人」。or if you don't like that は「またそれはお嫌いななら」。
34. 一捕まる, 「捕まえる」to catch, arrest の受動態「捕まえられる」の転訛。
35. 一そりや (sori ya) は「それは」のこと。気味 (漢語), feeling の意。直訳は that is a good feeling.
36. 一湿り, extinguishment (消火すること) の意で、「湿る」to be extinguished (消火されている) の語根。打つ, to strike の意で、「湿りの鐘 (bell) を打つ」の省略。安堵 (漢語) だ, [it] is freedom-from-anxiety (心配事から解放されている) の意で、「安心だ」と同様の語。
37. 一直訳は Because as-to me there-is [a] place to call at, from here [I] will-do separating-from you (o).
38. 一直訳は Master, how was [the] fire.
39. 一大火 (漢語), 「大」は great、「火」は fire の意。直訳は Well, [a] in late-years not great-fire. Even with that, only (koso) because [the firemen] worked well did-[it]-finish with [a] things of-that extent, but (ga) were-[it]-not so, with this wind, how-much [it] burns? is-not [a] known thing. こ

^{かぜ}の風だものは、英語の with such a wind as thus にそのまま相当する。

40. 一町内 (漢語), inside the ward (行政区の内側), the whole ward (行政区全体) の意。道具, 直訳は furniture (調度) の意であるが、ここでは役に立つ下僕または職員の意味である。目をかける, to look on kindly (親切に接する) の意で、直訳は to apply the eye である。(訳者注: 後半の) 直訳は、[They] are individuals whom [one] would desire (-tai) constantly to take an interest in.
41. 一無心 (漢語), begging (sponging) (ねだること、たかること) の意。「一を言う」は to sponge の意。(直訳は) Nevertheless, frequently, sponging are [-they]-not troublesome.
42. 一いんえ (Inye), 「いえ (iye)」no をより強調した口語形。
43. 一直訳は There-is-not [a] place [which] burns to-the-extent-of that neighbourhood.
44. 一怪我人, wounded persons の意で、「怪我」hurt, injury と「人」(漢語) = 「人 (shito)」person から。
45. 一火の元, 直訳は the origin of fire で、hearths (炉辺), brasiers (火鉢), lighted lanterns (行灯) などのように、火の手が上がる可能性のある全てのものをさす。用心 (漢語), caution (注意) の意。「一する」は to be careful about の意。あんな, that sort of の意で、恐らくは「あれな」の縮約したもの(「な」は「なる」のこと)。
46. 一もらい火, 「もらう」to receive as a gift (贈り物として受け取る) の語根と「火」fire の複合語で、どこか別の、離れたところにある家から受けた火のこと。出さないは「火事をださない」not produce a fire の意。直訳は As-to [a] caught-fire there-is-not remedy, but [one] must do so-as not-to-produce from one's-own house.
47. 一仏壇 (漢語); 祖先の位牌の入っている祭壇。神棚, ^{てんしょうこうだいじん}天照皇大神や、世帯主が特に信仰するその他の神道の神々の名前が書かれた紙片の飾られている祭壇。これらの祭壇はどの家にもあって、灯心に火をともした油皿が毎晩それらの前に置かれる。や; and, or の意。湿す, to extinguish (水で灯火を消す) の意。これらの神聖な灯火を吹いて消すことは、かなり罰当たりなことであると考えられている。直訳は Not-long-ago [it] appears somebody having-forgotten went-to-sleep.

付記 本稿は平成 18-20 年度科学研究費補助金 (若手研究 (B)) の研究成果の一部である。